



先月の山行

- ☆ 5月12日 (日) 鳴谷山 山行報告参照
 ☆ 5月29日 (日) 能郷白山 山行報告参照

6月の予定

- ★ 9日(木) 例会
 ☆ 12日(日) 銚子ヶ峰
 CL
 ☆ 18日(土) 県連主催山の日考座
 アオッサ 13時半～
 ☆ 26日(日) 鷲ヶ岳 実践登山 7時
 CL 宮本重信

7月の予定

- ☆ 3日(日) 伊吹山 雨天の場合、村国山
 5時半 7時

- ★ 14日(日) 例会
 17日(日)～18(祝)
 鳳凰三山 or 白山
 CL

- ☆ 31日(日) 三の峰
 CL

8月4日(木) 納涼会
 幹事

- ☆ 11日(祝) 三方岩岳
 ☆ 28日(日) 称名滝

山行申込み方法

- ・山行申込みの基本は例会時です。
(都合により例会に出席できないが、山行込みをしたい場合は、例会当日20時半頃、宮本の携帯090-8260-8108へ連絡してください。)
- ・例会時に未定であったり、山行申込済で都合によりいけなくなった場合は、前々日夜までに山行リーダーへ直接連絡してください。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

6月18日の“考”座に、ご自身のご参加を！

荒川勝巳

10年ばかり前にジャーナリスト本多勝一氏の講演のお世話係をしたことがある。本多氏ともなれば、話がペラペラで手元に置くのはせいぜい箇条書きのメモぐらいだろうと思ったが、大違い。びっしりと書きとめたメモを講演の直前までブツブツ読み込んでいた。それでいて本番でメモに目を落としたのは数字の確認ぐらい。

昨年の講座の前宣伝でボクはFBCテレビに5分位出た。その際に前口上に立った女子アナも、そのセリフを誰もいない所で3回繰り返していた。ペラペラしゃべる人の影には必ず努力がある。そしてそれを見せないのが演者というものである。

さて今回の“考”座では我が会の4人が講師を務める。演者の苦しみは、皆それなりにあるにちがいない。私の場合は、まず頭の中でストーリーを組み立てる。これならいけそう面白い話になるぞと思う。(ここまではいい!) あらすじを原稿化する。(要点のメモ程度) このメモを元に独演会をする。途端に口がもたつく。息詰まる。何だかおかしい! ここでメモの組み立てを直す。削ったり足したり。

2度目の独演会をする。多少ましたが、やっぱりへんだ。落ち込む。もう3度目の独演会をするがイヤになる。2～3日ほっておく。すると少し手直しの筆を入れる気になる。そして本当にイヤイヤながら4度目の独演会をする。う～ん。これなら、まあなんとかギリギリか。

さて本番。思ったより上手くいく時といかぬ時がある。人を見て法を説けというが、その水準にこちらが達していないのだから仕方がない。至らぬ点をあれこれ痛感しながらも、終わった後どこか爽やかな感じが生まれている。これがまあ演者の喜びか・・・!

という訳で、その辺の影の苦勞も察する上で是非会場に足を運んで話を聞いてほしい。良いところの1つも有れば拍手して欲しいし、詰まった所が有れば勉強不足のなせる所とうなずいてほしい。

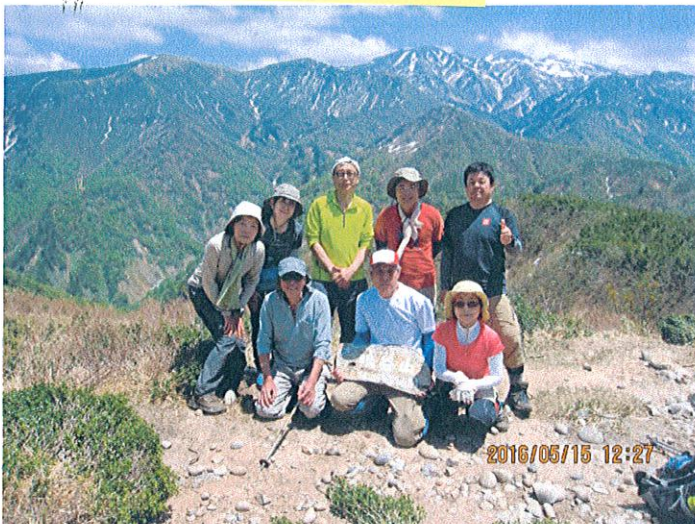
それではアオッサでお会いしましょう。

山行報告

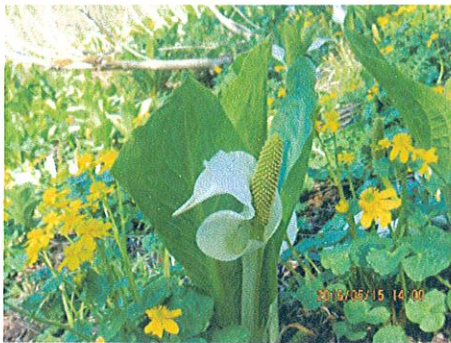
鳴谷山

日時 2016年5月15日 (日) 晴れ

報告者



「鳴谷山って何処にあるんですか?!」って大ボケの新人柴田明子と申します。人生初登山は勝山バンビライン。続く鷲走ヶ岳。そして今回3回目の山、鳴谷山。今年は例年に比べ雪解けが早いとの事で、5月中頃のタイミングで水芭蕉の白と立金花の黄色の素晴らしい群生を見れたのは、まさに奇跡!ましてや新参者にとっては奇跡中の奇跡(友清談)さらに尾根道を下ると、ここがすごい!!



「鎧壁」1億3千万年前白山が手取湖の底だった時代の砂岩層なんですって!!そう言えば転がっている石が何故か丸々していたのも湖底だった時代を思わせてくれる。ロマンですね。さてその他にも魅力いっぱいの鳴谷山。シャクナゲやブナ、天然杉の巨大古木、幻想的な百合谷の滝。

なんちゃって・・・流暢に語っておりますが感動はほんの束の間。余裕など全くない柴田。鳴谷山の厳しい登りは

新参者の私に容赦ない試練を与えてくれました。登り中頃から私の両足は悲鳴を上げはじめ、股関節と太ももがパンパンぱん。心の中は「もうダメかも・・・」との弱音と「くそ～負けちゃダメ!皆さんが待っている。」の相方が下山する最後の最後まで戦っていました。そして皆さんからかなり遅れ、ボロボロの私はやっとの思いで山頂へ。すると・・・「なんじゃこりゃ～!白山が間近の真横ではあ～りませんか?!信じられない!」感動のあまり泣きたい思いでしたが、私の視線は伴藤さんが作るランチ鍋へ。野菜たっぷりのスープ餃子♡食欲の方が勝り「まずは食べるべ!!」五臓六腑に染み渡りました。私の登山はどこまで続くかわかりませんが「すでに音を上げている」(笑)あの間近に見える白山の大自然は一生忘れる事は無いと思います。当日、出発から下山までメンバーの皆様に迷惑おかけした事を心よりお詫びと感謝申し上げます。そして終始辛抱強かずっと私をガードして下さった友清さん。色々なご指導のお蔭で無事3回の登山を果たす事が出来ました。繰り返し何度も心を込めて言いたいです。本当にありがとうございました。翌日月曜の筋肉痛は半端なかったですが、意外にも元気で無事仕事も出来ました。また次頑張れるかなあ・・・。末筆になりますが、この度のアシハイキング10年間無事故の表彰は素晴らしですネ。僥越ながらお祝い申し上げます・



能郷白山 1617m



日時 2016年5月29日(日)

報告者

私にとっては7か月ぶりの山行、初めての能郷白山です。どんな山か予備知識を持って登らなくてはと本を読みました。始めは急登また急登と覚悟して登っていたら、思ったより疲れませんでした。でも下りの最後の方は、やはり足が疲れていたのか、あやうく転びそうになり、用心用心と自分に言い聞かせながら下りてきました。

雪研集合6時、今回は16人の参加、たくさんで少々びっくり。3台の車に分乗して、6:05分ごろ出発、大野のコンビニで朝と昼ごはんのフルーツサンドとおにぎりを購入、運転手さんには申し訳ないが、車中で朝ごはん代わりのサンドイッチとコーヒーをいただく。

麻那姫少年休暇村で最後のトイレ休憩、用が済み次第すぐ出発。国道157号線をしばらく進むと、同じ国道だが、道幅が細くなりカーブも急で運転手は大変(ありがとうございます。)。そんな道をしばらく進むと峠、温見峠だ。すでに思ったより多くの車が道端に、でも3台止めるのは大丈夫、安堵する。

すぐ登山靴に履き替え、荷造りを確認、水がない。あわててしまう。ドリンクが2つあるから何とかなるか、フルーツとトマトも持ってきたし、でも不安、気づいた清家さんがペットボトルの水を1本いいからと差し出すので、申し訳ないと思いながら、頂いてしまう。ありがとうございます。

登山開始8:07ごろ、急登また急登を登りきったの

が9:30ごろ、そこから楽しい尾根道、少しだけアップダウンを繰り返すと間もなく頂上、10:15ごろか。笹で見晴しはよくない。神社まで行くと360°見晴らしがよいとのこと、すぐ行く。風が強い。地図を持ってきた人がいて360°山を確認。風で体が冷えて寒い人が増え、頂上に戻って昼ごはんにする。

いつもの通り、伴藤さんが、今回は焼きそばを用意、16人もの方にふるまってください。野菜・肉もたっぷりでおおいかった。加藤さんのオカリナのBGMもよかったです。

食べ終わると、とくにすることもなし。片づけて帰ることに。11:30ごろ頂上を出発する。

下りは早く、登山口に戻ったのは12:45ごろ。

帰り道、トイレ休憩以外は、お風呂場のミラクル亭まで一気に車を走らせる。14:30ごろ着く。荒川さんが割引券たくさんあるとのこと、460円で入浴できました。15:00すぎそこを出発、雪研には15:30ごろ、自宅へは15:45、いい時間になっていました。

普段からテニス、ウォーキング、ガープスで筋力を維持しているおかげか、疲れはしましたが、筋肉痛は一切ありませんでした。よかったです。まだしばらくみなさんについていけるかなと思った山行となりました。

鷲走ヶ岳

平成 28 年 5 月 1 日(日)曇

報告者

〇〇

久々に早起きをし、集合場所へ向かった。昨年、白山以来の山行だ。暫く参加していなかったためか集合場所に着くと、見慣れない顔がちらほらと見受けられた。私だけが知らないのだろうか？少しの不安と久々に登山できる嬉しさを乗せて車は出発する。途中、道に迷いはしたが、無事、山の麓に着く。いつものように靴を登山靴に履き替え、帽子を被り、ストレッチをし、さあ登山開始！その前に、初参加の人もいたため自己紹介が始まった。今日は総勢 13 名。この自己紹介のおかげで、私の少しの不安は解消した。

8 時、登山開始。足元が悪い登りが続く。ゆっくり、ゆっくりと前へ進む。ここを越えれば林道だ。今日の山行は山菜採りも兼ねている。しっかり採らないとお昼ごはんが食べられない。しかし、この山は山菜の宝庫！たらのめ、うど、こしあぶら、歩いているだけで次々と山菜を発見することができる。急斜面を登ってうどを採ったり、木の枝にストックを引っ掛けてこしあぶらを採ったりと各々、山菜採りに夢中になる。さらに歩くと、ごみが一面に広がる場所に辿り着く。贅沢にも、食べ頃のものを選んで袋に入れていく。

山菜採りもほどほどに、重くなったザックを背負い、お昼ごはんに向けて前に進む。拓けた場所が現れる。立て掛けてあった長い木を椅子にして、お昼ごはんの準備が始まった。水場もあり、調理するには申し分のない場所だ。みんなで採った山菜を天ぷらにして、茹でたそばの上のせて食べた。おいしい！山でこんな贅沢が出来るなんて!!幸せを感じる。その上、コーヒーまで頂き、心も温まった。お腹も一杯で、もうこのまま帰りたい気分である。だが、ここはあしハイキングクラブ、きちんと頂上を目指す。

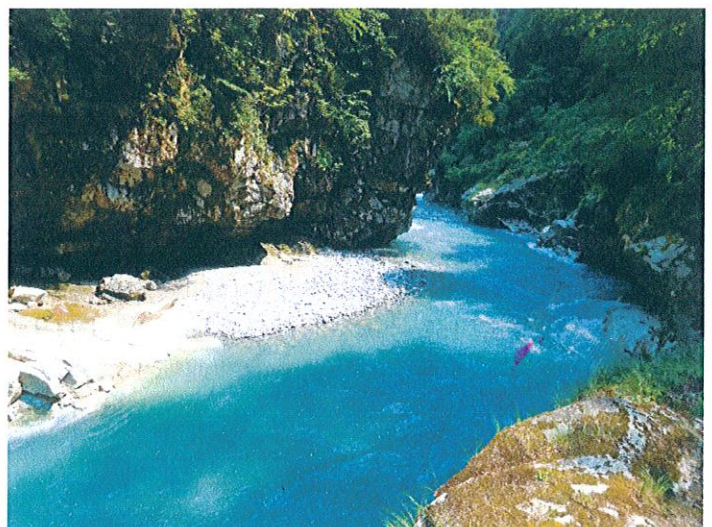
再び林道を歩き、途中から登りの山道に入った。暫く歩くと、オートバイの人たちと出会った。よくこんな所まで上がってこれたなぁと驚いた。山は歩くのが一番！一步一步地道に歩く。ついに頂上に到着した。景色も良く、ああ～、久しぶりにみんなと山行に来てよかったなと思った。頂上では今日、舌好調の K さんのオカリナ演奏が始まった。K さんがオカリナを習い始めた頃に聴いた時よりも、今回は安心して聴くことができた。

さて、あとは下山するのみ。ひたすらに下っていく。途中道に迷いそうになったが、15 時、無事に出発地点まで辿り着いた。帰りは水芭蕉により、雪研に戻った。

家に帰ると早速、山菜を調理し、思う存分、春の味覚を満喫した。今日はとても充実した一日でした！ありがとうございました。

「編集後記」

山シーズン到来！！自然と触れ合い心の洗濯をしてリフレッシュしてくださいね。



心身共に洗われる黒部川 猿飛峡

[jp](#) に送信ください。

畑中義和